

## 屋台彫刻の名手・谷口与鹿



<http://digitalarchiveproject.jp/information/屋台彫刻の名手・谷口与鹿/>



谷口与鹿は延恭の子(池之端)

<初代> 谷口家祖(郡上藩・金森家臣)

<第2代> 谷口五右衛門 吉道(郡上で金森氏改易のため、高山へ来て松田太右衛門の高弟今井庄兵衛のもとで修業)

<第3代> 谷口与三郎 延次(文化14(1817)年没)

<第4代> 権守 谷口五兵衛 延壽(とも)(天明元(1781)年出生～天保7(1836)年没)(旧姓 玉井)(上野家では谷口与三郎と呼び慣わしていた)

<第5代> 権守 谷口与三郎延恭(享和元(1801)年出生)― 妻・① 登具(とく)、② 津禰(つね)(後妻)

子 (津禰は万延元(1860)年10月1日没)

(登具は天保3(1832)年没か?)

<第6代> 谷口与六(文政5(1822)年出生、元治元(1864)年伊丹で43歳没、登具の子)

弟

<第7代> 谷口与三郎 宗之(与六の弟、後妻津禰の子、明治19(1886)年・47歳没)

※「加賀屋(上野)清五郎古文書について(一)」池之端甚衛『斐太紀研究紀要』平成22年秋季号 飛騨学の会発行 平成22年

\* 池之端甚衛の見解

従来、谷口与六は延恭の弟とされていたが、池之端は平成22年、母が実家から持参していた「加賀屋(上野)清五郎の古文書」に谷口与三郎の文書を確認した。その中に与六(与鹿)と谷口五兵衛 延壽(とも)の名前が出ていて、文書による関係から祖父と孫であると検証した。つまり、与六と延恭は兄弟でなく親子であると結論を出している。

<与六の高山脱出の理由>

◇与六の母親「登具(とく)」の死と後妻「津禰(つね)」の入籍など家庭内の事情があった。

◇与六が11歳のとき母 登具死亡。16～17歳のときに父が後妻を迎え、異母弟が生まれた。

◇屋台彫刻の仕事が終わってしまい、彫刻の仕事が減った。

◇借金があった。190両の借金は延恭のもの。

※『斐太紀研究紀要』平成22年秋季号 通巻3号 飛騨学の会発行 平成22年9月より



0001\_惠比寿台・与鹿彫刻



0002\_惠比寿台・与鹿彫刻



0003\_惠比寿台・与鹿彫刻



0004\_惠比寿台・与鹿彫刻



0005\_惠比寿台・与鹿彫刻



0006\_惠比寿台・与鹿彫刻



0007\_惠比寿台・与鹿彫刻



0008\_惠比寿台・与鹿彫刻



0009\_惠比寿台・与鹿彫刻



0010\_惠比寿台・与鹿彫刻



0011\_惠比寿台・与鹿彫刻



0012\_惠比寿台・与鹿彫刻



0013\_惠比寿台・与鹿彫刻



0014\_惠比寿台・与鹿彫刻



0015\_惠比寿台・与鹿彫刻



0016\_惠比寿台・与鹿彫刻



0017\_惠比寿台・与鹿彫刻



0018\_惠比寿台・与鹿彫刻



0019\_琴高台・与鹿彫刻



0020\_琴高台・与鹿彫刻



0021\_琴高台・与鹿彫刻



0022\_琴高台・与鹿彫刻



0023\_琴高台・与鹿彫刻



0024\_琴高台・与鹿彫刻



0025\_琴高台・与鹿彫刻



0026\_琴高台・与鹿彫刻



0027\_琴高台・与鹿彫刻



0028\_琴高台・与鹿彫刻



0029\_琴高台・与鹿彫刻



0030\_琴高台・与鹿彫刻



0031\_琴高台・与鹿彫刻



0032\_琴高台・与鹿彫刻



0033\_琴高台・与鹿彫刻



0034\_琴高台・与鹿彫刻



0035\_琴高台・与鹿彫刻



0036\_琴高台・与鹿彫刻



0037\_琴高台・与鹿彫刻



0038\_琴高台・与鹿彫刻



0039\_琴高台・与鹿彫刻



0040\_琴高台・与鹿彫刻



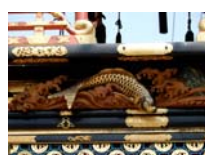
0041\_琴高台・与鹿彫刻



0042\_琴高台・与鹿彫刻



0043\_琴高台・与鹿彫刻



0044\_琴高台・与鹿彫刻



0045\_琴高台・与鹿彫刻



0046\_麒麟台・与鹿彫刻



0047\_麒麟台・与鹿彫刻



0048\_麒麟台・与鹿彫刻



0049\_麒麟台・与鹿彫刻



0050\_麒麟台・与鹿彫刻



0051\_麒麟台·与鹿彫刻